

学ぶ意欲をもち、主体的に学習する児童の育成

～ 基礎・基本を身につけ、学ぶ喜びを実感できる指導法の工夫・改善 ～



- 学校名 吉川市立三輪野江小学校
- 所在地 埼玉県吉川市大字加藤641番地
- 電話番号 048(982)2330
- E-mail アドレス yoshi3es@educet.plala.or.jp
- ホームページ <http://academic4.plala.or.jp/miwanoe/>

1 研究主題

「学ぶ意欲をもち、主体的に学習する児童の育成」

～ 基礎・基本を身につけ、学ぶ喜びを実感できる指導法の工夫・改善 ～

(1) 主題設定の理由

算数科を中心として、基礎・基本の確かな定着と、児童の学習意欲を高める「できる、わかる授業」の展開のための指導法の工夫・改善により、わかる喜びやできた達成感をもたせていくことが、学びの継続と確かな学力の育成につながると考え、本主題を設定した。

(2) 研究の全体構想

学ぶ意欲をもち、主体的に学習する児童の育成

～ 基礎・基本を身につけ、学ぶ喜びを実感できる指導法の工夫・改善 ～

確かな学力・生きる力

めざす児童像

- 算数の楽しさに気づき、意欲的に取り組む子
- 自分から課題を見つけ、見通しをもって考える子

研究の視点

児童が主体的に取り組めるような教育課程を工夫し算数的活動を充実すれば、算数の楽しさを実感でき意欲的に学習するようになるであろう。

児童の実態や学習状況を把握し、少人数指導を工夫することで個に応じた支援と評価を行えば、基礎・基本が定着し自分で課題を解決できるようになるであろう。

既習の内容から考える手立てを明確にすれば、学習の見通しが立ち、進んで考えるようになるであろう。



知識・技能の確実な定着のための

スパイラルな教育課程

課題解決や発展的な学習等の場面で主体的に取り組む

算数的活動

少人数指導

学習内容や進捗状況に応じて、学習形態を工夫

新学習指導要領を生かした手立て

2 研究の実践

(1) スパイラルによる教育課程

ア 既習事項の指導案への明確な位置づけ

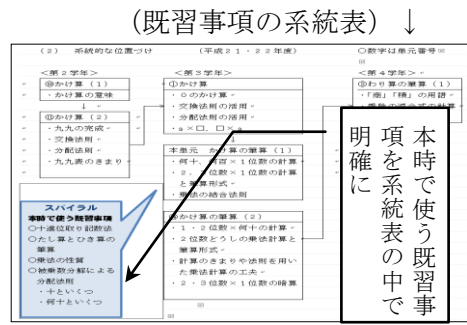
各学年の系統的なつながりや本時の学習内容の数学的価値を明確にし、学習指導に生かした。

イ 学習の振り返りができる算数コーナーの設置

各教室に設置し、単元に関する既習事項を掲示し、いつでも既習を振り返りながら学習を進めることで、スパイラルな学習への取組を進めた。

ウ 算数自己診断カードの作成と活用

既習事項をスモールステップ化した算数自己診断カードを作成し、各段階に対応したミニ問題集に取り組んだ。既習に戻って問題を解いていくスパイラル学習により、基礎・基本の定着を図った。



↓ (算数コーナー) ↓



学習タイムで主体的に

個別指導でわかるまで



問題番号	例題	答え	1回目	2回目
①	390÷60(わる数がけたのわり算)	6あまり30	✓	✓
②	314÷43(わる数がけたのわり算)	7あまり13	✓	✓
③	730÷24(商がけたのわり算)	30あまり10	✓	✓
④	732÷216(わる数がけたのわり算)	3あまり94	✓	✓
⑤	7.2÷3(小数のわり算の筆算)	2.4	✓	✓
⑥	0.24÷6(小数のわり算の筆算)	0.04	✓	✓
⑦	46.7÷3(小数のわり算の筆算)	15あまり1.7	✓	✓
⑧	5.4÷4(わり算の筆算)	1.25	✓	✓

名前	4-11	名前
①-A	2/3 は 1/3 の □ 倍です。	
②	3/7 は 1/7 の □ 倍です。	
③	9/6 は 1/6 の □ 倍です。	
④	8/5 は 1/5 の □ 倍です。	
⑤	4/4 は 1/4 の □ 倍です。	

ミニ問題集

(2) 算数的活動の充実

ア 指導案の中への位置づけ (図-1)

授業展開の中での算数的活動の内容やその意図を明確にすることで、算数的活動を効果的に取り入れた学習活動の充実を図った。

イ 系統性をふまえた、低学年からの積み上げ

学年間の系統や単元ごとの系統をふまえ、多くの場面でより効果的に算数的活動を行うように工夫した。

(図-1) ↑

(3) 少人数指導の充実

ア 学習形態の工夫

児童の発達段階や学習状況、単元の内容に応じて、少人数グループ・T T・習熟度別グループ等の学習形態を、1単位時間や単元の途中でも柔軟に設定し、充実を図った。

イ 座席表の活用

座席表により、児童の学習状況や本時の個々の到達目標、個別の手立てについて明確にすることで、児童一人一人の実態把握や、授業での個別の支援の充実を図った。

3 研究の成果

- 算数が好きな児童が10%増えた。
- 校内算数診断テストの9月と10月の結果を比較すると、学校全体で、正答率に8%の伸びがみられた。
- 一人一研究授業の取組により、新学習指導要領の趣旨をふまえ、算数的活動の重視、スパイラルな学習を中核に据えた授業改善を進めることができた。

算数診断テストの結果より

